

石川県能登町立鵜川小学校

うかわっ子海洋教育推進プログラム



豊かな海を生かした教育

身近な自然にもっと触れてほしい

石川県能登町は、波が穏やかな能登半島の内海に位置する。町の教育委員会では「海洋教育には学力向上に必要な要素が詰まっている」という考えから、「人の話を聞き、自分で進んで行動し、自主的に学ぶ力」を育むべく、自然を生かした海洋教育に注力している。

町のほぼ南端に位置する能登町立鵜川小学校でも、磯観察やヒラメの稚魚の放流、ウニの受精卵の観察のほか、特産品であるイカをテーマにした観光交流施設の見学などを行ってきた。

これらの活動を通して担当の梅木大嗣教諭が感じたのは、児童たちが身近な自然の良さを知らないことだ。「近くに海があるのですが、釣り体験ではほとんどの児童が初めての経験だったのです」と語る。



「海の漂流物について考えよう」をテーマにゴミ拾いを実施



小木地区九十九湾での釣り体験。ほとんどの児童が初めての体験だった



教室で育てたヒラメの稚魚を鵜川の海に放流

児童同士の交流の深まりに注目

それでも成果はじわりと表れはじめている。新型コロナの影響で各行事が延期・短縮されるなか、鵜川小では児童たちが「やれる範囲でやりたいこと」を考えて校長にプレゼンテーションするようになった。そうして実現したのが「鵜川の海での釣り体験」だった。

梅木教諭は「前回、遠足で行った能登町小木地区での釣り体験が忘れられなかったようです。また、少し離れただけの鵜川の海では違う魚が釣れることにも興味を示していました」と話す。永草いづみ校長は「釣り自体も楽しかったようですが、友達や上級生がエサの付け方や針の外し方などを教えてくれた、その思いやりがうれしかったようです」と、児童同士の交流の深まりに注目する。

現在のコロナ禍で、以前は行われていた町内の小中学校との海洋教育交流は停滞しているが、今年度はICTを駆使して他校との交流を一層進めていく予定だ。(プログラム助成)



のと海洋ふれあいセンターで行った磯観察の様子



●実施担当

梅木大嗣 教諭

●活動のモットー

まずは身近に豊かな自然があることを知ってほしい。そのうえで地元の良さを学んで、鵜川を訪れた人に教えられるようになってもらいたい。



幕末・明治の教育者・原勤堂、江戸時代の横綱・阿武松緑之助、自らの命を顧みず乗員の命を救った「東海丸」の船長・久田佐助。鵜川出身の三偉人になぞらえた「知徳体」の教えを受け継ぐ伝統校。

設立：1873年

生徒数：52人

所在地：石川県鳳珠郡能登町鵜川125-28

学校概要

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索